カフ上部吸引器

ヨックスSSD

Subglottic Secretion Drainage



写真はヨックスディスポとの組み合わせ例

販売名	ヨックスSSD C101
認証番号	229AKBZX00016000
一般的名称	電動式可搬型吸引器
クラス分類	管理医療機器
吸引圧力	−6kPa〜−30kPa
電源	入力：AC100V〜240V, 50-60Hz
消費電力	15W
バッテリー	リチウムイオン
電撃に対する保護の形式	クラスⅡ機器　内部電源機器
電撃の保護の程度による装着部の分類	BF形装着部
バッテリー作動時間	満充電の状態から約18時間
充電時間	約7時間
使用環境条件	温度：+5℃〜+40℃ 湿度：15%〜93% 結露しないこと IP保護等級：IP22
保管環境条件	温度：−25℃〜+60℃ 湿度：93%以下 結露しないこと
本体寸法	290×259×130mm（縦、横、奥行）
重量	2.2kg（内蔵バッテリー含む、AC/DCアダプター除く）

●製品の色は印刷物ですので、実際の色と多少異なる場合があります。
●製品の定格及びデザインは、改善等の為予告なく変更する場合があります。

人とともに呼吸する。
KOIKE MEDICAL
製造販売元　株式会社小池メディカル
本　社　〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-24-8
03-5662-6605（代）
http://www.koike-medical.co.jp

■ お問い合わせは

2017.00

人とともに呼吸する。
KOIKE MEDICAL

カフ上部吸引、どうしていますか？

吸引圧や吸引時間を細かく設定できる、カフ上部吸引が可能。
吸引の回数を減らし、看護する方々の負担も大幅に軽減します。



カフ上部吸引器

ヨックスSSD

Subglottic Secretion Drainage



- 低圧での吸引により、安全かつ効果的なカフ上部吸引を実現。吸引時の粘膜損傷を抑えます。
- 吸引圧/吸引時間/休止時間を、患者さんに応じて簡単に設定可能。患者さん、看護スタッフの負担を軽減できます。
- 各種アラーム(満杯/閉塞/バッテリー残量)を装備。
- 持ち運びも簡単にできる、2.2kgの軽量・ポータブルな本体。
- 停電時や災害時にも安心な、最大18時間駆動のバッテリーを内蔵。
- 作動音や振動が気にならない静音設計。
- 日本初の電動カフ上部吸引器。



ヨックスSSDは以下の場面で有効にお使い頂けます。

挿管チューブ、気管切開チューブの装着患者さんのVAP発生防止

Q どの程度、VAPの予防が出来るのでしょうか?

VAPの発生原因の大きな要因としては分泌物の誤嚥があります。欧米の研究ではカフ上部吸引を適切におこなうことで、カフ上部吸引を行わなかった場合に比べて発生率が半減したとの報告もあります(1)。

(1) A randomized clinical trial of intermittent subglottic secretion drainage in patients receiving mechanical ventilation. Smulers, van der Hoeven H, Weers-Prothoff, Vandenbroucke¦-Grauls C. , Chest.2002;121:858-862

分泌物が多い気管切開患者さんの吸引業務削減

Q どのように吸引業務が削減出来るのでしょうか?

気管切開患者様の場合、分泌物が溜まるカフ上部と切開した部分の距離が近い為、個々の患者さんにあわせた吸引頻度の維持が出来ない際に、分泌物が溢れ出てしまうことがあります。ヨックスSSDを使うことで患者さんの不快感の軽減、また着替え等を行うスタッフの業務量の低減にも効果的です(2)。

(2) Highlights of Recent Experience in Long-term Care Settings with an Automated Intermittent Subglottic Aspiration System. Helmut Fendler, RN, Katja Fain, SLP, and Jerry Gentile, BSRT, BSHA, MBA,, EdD(c), RT, RRT, Respiratory Therapy Volume 11 Number 1 Winter 2016

看護スタッフの配置が少ない病棟でのカフ上部吸引業務低減

Q どのようにカフ上部吸引の業務が低減出来るのでしょうか?

カフ上部の分泌物量は患者さんによって異なり、AARC(米国呼吸療法学会)によれば、カフ上部吸引は1日に複数回行うことが望ましいとされています。また、カフ上部吸引の推奨圧は−80〜−150mmHg(約−10〜−20kPa)とされています。従来の吸引器やシリンジの場合、患者さんに合わせた圧の設定、吸引頻度を保つことが困難でした。ヨックスSSDは、吸引時間/休止時間の設定、−6〜−30kPaの範囲で圧の設定が容易ですので、吸引を行う看護スタッフの負担を低減出来ます。

(3) The Role of Subglottic Secretion Drainage in VAP Prevention: ICU Experience with an Automated Intermittent Subglottic Secretion Drainage System, Dr. med Markus Wolf, Respiratory Therapy Volume 11 Number 4 fall 2016